

令和5年度全国学力・学習状況調査について〈分析〉

令和5年度「全国学力・学習状況調査」が3年生を対象に4月18日に実施されました。

国語・数学・理科のテストとともに「生活・学習状況」についての質問が実施されました。この結果と資料が文部科学省から学校に届きました。本校3年生全体の傾向について、次のように分析いたしました。

〈1〉生活・学習状況についての分析

(1) 生活について

今年度もこれまでと同様に「毎日朝食を食べていますか」という質問に対して「食べている」と回答した生徒がほとんどでした。また、「学校に行くのは楽しいと思いますか」「友達関係に満足していますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という3つの質問に対しては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合はやや低くなっています。生徒たちが安心して悩みを打ち明けられるような環境づくりにさらに力を入れていく必要があると考えます。「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して「当てはまる」と回答した生徒の割合が極めて高く、規範意識がしっかりしている様子がうかがえます。

(2) 自分自身について

「人が困っているときは、進んで助けていますか」という質問に対しては、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合は高くなっています。しかし、「自分には、よいところがあると思いますか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」という2つの質問に対しては、「ある」と回答している割合が少し低くなっています。毎日の生活の中で、身近なことに感謝したり、感動したりするような自分自身を振り返る時間の余裕が少なくなっていることが考えられます。今まで以上に心に余裕が持てるような環境づくりを、周囲の大人が生徒たちと向き合っていく必要があります。

(3) 学習について

「国語の勉強は好きですか」「英語の勉強は好きですか」という質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合が高い状況です。学校の授業を大切にし、非常に前向きに取り組んでいる姿が感じられます。しかし、「数学の勉強は好きですか」という質問に対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は、少し低くなっています。「国語・数学・英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問に対しては、どの教科も「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は高く、将来への意識を高く持って学習に取り組んでいる様子がうかがえます。

(4) 学校外の生活等について

①これまでと同様に、「学校の授業以外に、平日の1日当たりどれくらい勉強しますか」という質問に対して「1時間以上」と回答した生徒の割合がほとんどでした。特に「2時間以上」と回答していた生徒の割合は高くなっていました。学校が休みの日についても、平日と同様の結果が出ています。授業以外でもしっかり学習している様子がうかがえます。大変好ましい傾向を示しています。

②学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強に役立つと思いますか」という質問に対して「役に立つと思う」「どちらかといえば、役に立つと思う」と回答した生徒の割合がほとんどでした。今後もさらに授業でのICT活用の場数を多くしていくこと、そして活用するための環境整備をしっかりと行っていくことが必要であると考えられます。

< 2 > 国語の分析

全体として国語の問題では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が高い傾向にありました。しかし、「情報の扱い方に関する事項」については課題がみられました。

- ①文章のどの部分に着目して読んだか、どのように解釈したか、調べてわかったことは何か等、根拠を明確にして話し合ったり、ICTを活用して自分の考えを書いたりする活動を行う。
 - ②作文やレポートを書く習慣を身につけさせ、自分の伝えたいことを表現する。
 - ③全国学力・学習状況調査の問いを参考に、授業における発問の内容を工夫する。
- 以上の3点を改善策とし、今後の指導を行っていきたいと考えています。

< 3 > 数学の分析

全体として数学の問題では、「図形」の領域の正答率が高い傾向にありました。しかし、「データの活用」の領域については課題がみられました。

- ①「数と式」領域では、用語の確認を行い、計算練習を増やす。「関数」領域では、一次関数の変化の割合や変域について、グラフを用いて視覚的にとらえられるようにする。表や式と結びつけて説明をする活動を取り入れる。(ICTの活用を含む。)
 - ②「□□(前提)は、△△(結果)である。」「□□(グラフ等用いるもの)を用いて、△△(使い方)する」「□□(根拠)であるから、△△(成り立つ事柄)である」のように、論理的に説明できているか、記述できているかといった表現する場面を多く取り入れる。
 - ③ヒストグラムや箱ひげ図の比較を通して、データの分布の特徴やその表し方を理解させる。具体的な身近にある複数データを用いて、そのデータの傾向をとらえさせる。
- 以上の3点を改善策とし、今後の指導を行っていきたいと考えています。

< 4 > 英語の分析

全体として英語の問題では、「読むこと」の領域の正答率が高い傾向にありました。しかし、「書くこと」の領域については課題がみられました。

- ①未来表現の肯定文や疑問詞を用いた一般動詞の疑問文を小テストや定期テストなどで、正確にかけるようにする。
 - ②英語を読んだり、聞いたりして概要や要点をとらえる活動を多く取り入れる。
 - ③聞いたり、読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり、自分の考えを英語で書いたりする活動を多く取り入れる。
- 以上の3点を改善策とし、今後の指導を行っていきたいと考えています。